

# 校友会報

**NO.04**  
2018.11 発行



硬式野球部



四国カルスト



愛媛大学医学部附属病院

発行：愛媛大学校友会事務局

〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2階  
Tel:089-927-8610 / Fax:089-927-8609

E-mail:office@koyu.ehime-u.jp  
webサイト:http://koyu.ehime-u.jp/



## << 校友会の主な事業活動 >>

## CONTENTS

平成29年11月～平成30年10月

### 平成29年

11月	子規俳句カレンダー 2018 発行
11月	校友会報 第3号 発行
11月11日(土)	第8回(グローバル)ホームカミングデイ
12月9日(土)	近畿支部役員会

### 平成30年

1月13日(土)	首都圏支部役員会
1月29日(月)	「地域定着促進特別奨学金」交付式
2月28日(水)	就職支援事業(大阪)就活学生との情報交換会
3月10日(土)	就職支援事業(東京)就活学生との情報交換会
4月7日(土)	首都圏支部役員会
5月12日(土)	近畿支部役員会
5月19日(土)	新社会人交流会「全員集合 in 東京2018」
6月1日(金)	校友会総務企画担当常任理事会
6月9日(土)	首都圏支部定時総会・講演会・懇親会
6月19日(火)	校友会常任理事会
6月30日(土)	中国支部設置準備委員会
7月14日(土)	近畿支部定時総会・講演会・懇親会
7月27日(金)	校友会理事会・懇親会
7月23日～8月24日	平成30年7月豪雨災害義援金募集, 日本赤十字社愛媛県支部へ寄附
8月8日(水)	「学生団体活動援助金」交付式
9月8日(土)	中国支部設立総会・懇親会
10月13日(土)	首都圏支部役員会

-----	校友会の主な事業活動	03
-----	大学支援事業	04
-----	課外活動支援事業	05
-----	学業奨励金給付事業	06
-----	就職支援事業	07
-----	海外留学支援事業	08
-----	社会連携事業	09
-----	ホームカミングデイ	10
-----	グローバルホームカミングデイ・ 海外支部合同支部会	11
-----	サークル紹介	12
-----	地域連携	14
-----	先輩に学ぶ	16
-----	国内支部	20
-----	国内支部・海外支部	21
-----	国内支部設立	22
-----	子規俳句カレンダー, 特別寄稿	23
-----	平成30年度理事会開催	24
-----	事業報告及び事業計画	25
-----	校友会組織, Q&A	26
-----	会員情報登録, 事務局だより	27
-----		

### 卒業式の様子 2018年3月23日(金)、「ひめぎんホール」にて愛媛大学卒業式・大学院学位記授与式が開催されました。

平成30年3月23日(金)、午前10時から「ひめぎんホール」で、平成29年度愛媛大学卒業式及び大学院学位記授与式が挙行され、1,807人の学部卒業生、351人の大学院修士に学位記が授与されました。

卒業式では、大橋裕一学長から各学部の代表者に学位記が手渡され「見返りを求めず、人のために働いてこそ人生は豊かになる。社会の一員として、人のために良い種をたくさんまいてください。」と式辞があった後、高橋祐二校友会会長が「皆さんが大学生活で培った知識、技能のみならず、経験や人間関係というものは、間違い無く人生の糧になります。それらを礎に、これからは社会で、あるいは大学院で、グローバルな視点を持ち、自ら考え行動する人間を目指して行ってください。」と祝辞がありました。

その後、卒業生を代表し農学部の細川 莉那さんからは、「学んだことを最大限に生かし、新しい道を切り開き、一歩ずつ前に進んで行きたい。」と答辞がありました。

また、校友会では卒業生に、卒業記念品として『今治のタオル製品』を贈呈しました。

卒業生の皆様の今後ますますのご活躍とご発展をお祈りいたします。



### 入学式の様子 2018年4月6日(金)、「ひめぎんホール」にて愛媛大学入学式が開催されました。

平成30年度愛媛大学入学式及び大学院入学式が4月6日(金)の午前10時から、「ひめぎんホール」(愛媛県民文化会館)において挙行され、1,934人の学部生及び418人の大学院生が入学しました。

入学式では、学部ごとに入学生が紹介された後、大橋裕一学長の式辞がありました。引き続き高橋祐二愛媛大学校友会会長から「愛媛大学で、勉学に励み専門性を高めるとともに、高い志と幅広い視野、多様性を理解し受け入れる広い心、そして目標を実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップを身につけてください。」と祝辞がありました。

また、入学生を代表して、工学部機械工学科の西原蓮人さんが「今日の喜びを胸に、本学では志を高く持ち、日々勉学に励み、知識・技術を身に付け、社会に貢献できる人間になれるよう努力してまいります。」と力強く宣誓しました。



愛媛大学校友会では学部入学生に、学修ポートフォリオファイルと、校友会会員登録記念品を贈呈しました。

平成30年8月8日(水)、愛媛大学校友会館2階サロンで、学生団体活動援助金交付式を大橋学長及び高橋校友会会長出席のもと実施しました。これは、校友会の学生支援事業の一つで、愛媛大学学生団体評価実施規程に基づき、大学が平成29年度における課外活動状況を上位からA～Eの5段階に評価し、優秀な団体に対し校友会から活動費(総額500万円)を援助するものです。

これにより、学生の皆さんの課外活動の更なる飛躍及び活性化を促し、また校友会の支援事業を理解していただくことを目的として平成19年度から実施し、今回で12回目の交付となりました。交付式では、評価Aのサークル紹介があった後、大橋学長から「校友会には今年も、本学の課外活動団体に資金を援助していただきありがとうございます。」との挨拶がありました。

大学としても課外活動に対しては大いに支援していくつもりです。皆さんも活動を通じて多くの仲間と切磋琢磨し、いろいろな能力を身につけてください。」との挨拶がありました。



引き続き高橋校友会会長から体育系全学サークル代表者と文科系全学サークル代表者にそれぞれ活動援助金の目録が授与され、「A評価を受けた団体の皆さん、おめでとうございます。皆さんが日頃からサーク

ル活動に真摯に取り組み、日々努力を積み重ねられたことに敬意を表します。皆さんの熱意とリーダーシップを今後活かしてください。」との挨拶がありました。



引き続き行われた懇談では、各サークル団体から活動内容や実績等の報告、また大学への要望などについて意見交換がありました。

愛媛大学の課外活動サークルのより一層の活躍を期待しています。



【給付対象

評価C以上：給付団体 計50団体  
(体育系32団体、文化系18団体)】

【今回のA評価の団体】

- ・体育系6団体  
陸上競技部、ダンス部、合気道部、弓道部  
男子バレーボール部、チアリーディング部
- ・文化系4団体  
E.S.S., 書道部、交響楽団、放送研究会



学生の学習環境充実のために、大学の図書館(城北地区中央図書館、重信地区医学部分館、樽味地区農学部分館)へ毎年200冊以上の学生用図書を寄贈しています。

- ・平成27年度…342冊
- ・平成28年度…243冊
- ・平成29年度…338冊

※寄贈本には校友会の印章が押印してあります。

平成30年1月29日（月）、愛媛大学校友会館2階サロンで、平成29年度 愛媛大学「地域定着促進特別奨学金」交付式を大橋学長及び高橋校友会会長出席のもと実施しました。

この愛媛大学「地域定着促進特別奨学金」制度は、校友会からの資金援助により、本学学生が卒業後、愛媛に就職し、かつ地域の発展に貢献できる人材を確保する目的で昨年度から創設されたものです。

具体的には、「愛媛大学第3期中期目標・中期計画」に基づき、今年度から平成33年度末までに、現在の県内就職率を現在の約38パーセントから50パーセント以上にすることを目標に、キャリア形成支援として立ち上げ、愛媛県内の企業、自治体、学校等に就職し、県内に定住する学部学生に対し、愛媛大学が審査・選考のうえ20人（1人20万円、総額400万円）に経済的支援を行うものです。



式では、大橋学長から特別奨学金を受給することとなった学生に、「今後、地域の中核的な担い手として、愛媛県内の企業、行政機関等に就職され、また、医学部生にあつては臨床研修に参加し地域医療に従事されるなど、愛媛県に定住し、地域の活性化や発展に寄与してくれるものと期待しています。また、校友会には今後とも変わらぬご支援を

お願いします。」と挨拶がありました。



引き続き高橋校友会会長から特別奨学生一人一人に目録が贈呈され、「この度は、愛媛県内企業等への就職内定誠におめでとうございます。今後、本奨学金を受給された皆さまには、愛媛の地に根ざし、地域の発展と活性化に大いに寄与していただきたい。」と激励の挨拶がありました。



その後受給者を代表して法文学部総合政策学科の市川大樹さんと、農学部生物資源学科の栗原千晶さんから「愛媛県内に就職し地域の発展に貢献したい」との謝辞がありました。



**就活ツアー（バス運行、交通費援助）支援**

愛媛大学および各学部後援会と共催で、東京・大阪や広島で開催される合同企業説明会へ参加する在学生のためにバスの運行や交通費の支援を行っています。

**就活学生と卒業生との情報交換会開催**

首都圏及び近畿圏への就活ツアーに参加した就活学生と同圏内に在住している卒業生との情報交換会を開催しています。

この情報交換会は、就職や職業生活等の幅広い情報を収集し、今後の就職活動に役立てる目的で実施するものです。さらにこの情報交換会を通して、本学学生と本学卒業生の交流を促進することで、校友会組織を拡充し、卒業生の協力による本学就職支援体制の強化充実を図るものです。

●平成30年2月28日(水) =大阪コース=

大阪の合同企業説明会「マイナビEXPO」(インテックス大阪)に併せて実施しました。年度末の平日にもかかわらず、近畿圏在住の卒業生20人と就活生45人との情報交換会を大阪梅田の「ブリーゼプラザ」で開催しました。



情報交換会では、単なる就職活動のノウハウだけでなく、職業人としての心構えや仕事に対する姿勢など、幅広い情報交換が活発に行われ、本学学生と卒業生との新たな交流が生まれました。卒業生の皆様、お忙しいところありがとうございました。

●平成30年3月10日(土) =東京コース=

東京の合同企業説明会「マイナビEXPO」(東京ビッグサイト)に併せて実施しました。この就活ツアーは平成18年度から実施しており、今回も首都圏在住の卒業生27人と就活生38人との情報交換会を「グランパークプラザ」で開催しました。



情報交換会では就活生の代表が「本日の情報交換会で多くの諸先輩方と情報交換し交流を深めるとともに、就活生同士でも情報を交換し就活に役立てたい。」と力強い挨拶がありました。会場は卒業生と在学生との活発な意見交換で熱気が溢れ、在学生は真剣な眼差しで先輩に質問するなど、非常に有意義な会となりました。

卒業生の皆様、お忙しいところありがとうございました。

平成30年度の情報交換会の開催は次のとおり計画しています。卒業生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。(都合により変更となる場合があります。)

●大阪コース 平成31年3月3日(日) 18:00 ~ 「ブリーゼプラザ」7階小ホール 大阪市北区梅田2-4-9

●東京コース 平成31年3月8日(金) 18:30 ~ 「グランパークプラザ」4階(401ホール) 東京都港区芝浦3-4-1

留学する学生のために、渡航費や海外旅行傷害保険等の一部を支援しています。また、海外留学安全対策協議会（JCSOS）のJ-Basic加入料を負担しています。この海外留学生支援事業により、海外留学した学生の体験記をご紹介します。（一部略）

## 「留学を終えて」

教育学部 総合人間形成課程 徳増 萌々

### 概要

■研修期間 2017年8月～2018年5月

■留学先 ルイジアナ大学モンロー校

2017年8月から2018年5月まで、ルイジアナ大学モンロー校に留学をした。その中で「気づき」について項目別にまとめたと思う。

### 大学内での授業

私は元々英語があまり得意ではなかったため、前学期はESL (English for Second Language) の授業を3つも取っていた。後期は、自分の受けた授業を受けることができEnglish CompositionやPublic Speakingなど実用的な授業を受講していた。計4回の論文と3回のプレゼンを経て、主に論理的なライティングスキルと人前でのスピーキング力を伸ばすことができた。これらの授業で気づいたことは、ネイティブスピーカーではないからと言って、私の論文やスピーチが決して劣っている訳ではないということ。何を伝えたいのかを明確にし、反復練習を重ねることで、他の学生よりいい仕上がりになったこともある。将来、英語で何か発信することがあるかもしれないが、これらの授業は大きな自信に繋がった。また、特にInterpersonal Communicationの授業は留学中の私生活にも役に立った。アメリカではコミュニケーション学という分野があるくらい、社会でも教育でもコミュニケーションスキルを重要視している。近年の調査の結果、アメリカ企業が従業員に求めるスキルの第一位はコミュニケーションスキルだ。最初は、コミュニケーションなんて自然と身につくものだと考えていたが、学習していくうちに、他人とコミュニケーションの際相手の文化の特徴などを意識して話していることに気付いた。ラインやメッセージなどSNSでのやり取りも、学習したことを活かしている。私の専攻は国際理解教育だが、これらの学習を進めていくにあたって、異文化間コミュニケーションを学ぶことは国際理解の基盤を作ると感じた。

### 授業外での活動

授業外では、主に日本語教育と文化発信に努めた。日本語教育はボランティアとして実施し、基本的にマンツーマンで授業を行った。もうすでに日本語で簡単

な会話ができる学生もいれば、アニメで聞いたり見たりした単語だけを知っている学生もいた。どの学生も日本文化に興味津々で、「お遍路に母が挑戦したいと言っているのですが」「松山城に上って、侍の格好がしたい」など、私の地元文化について話してくれることもあり、質問されたら全力で答えた。渡航前は、アメリカでは日本語教師の需要が低く、働くのは難易度が高いと思っていたが、実際思ったよりも日本語学習に興味のある学生が多く、彼らはただ日本語を学ぶ機会が少ないことに気づいた。小学校では日本語教育が選択科目の学校もあるが、アメリカ人教師が片言の日本語を教えているようだ。ULMには中国語、フランス語、スペイン語、ラテン語の授業が第二外国語科目としてあったが、日本語科目があったら日本語を受講したいという学生も何人も見かけた。今回の日本語教育ボランティアは、そんなアメリカ人学生にとって有効だったと思う。また、学内のイベントには積極的に参加した。International Food Festivalでは、留学生が各国の料理を販売するのだが、私はおにぎりを用意した。狙い通り認知度は高く、ほとんどの人はおにぎりをアニメなどで見たことはあるが食べたことがないとの事だった。大好評のおにぎりと共に、祖母手作りの千代紙と押し花でできたしおりをプレゼントしたのだが、これがまた反響を呼んだ。というのも、そのしおりはかなり手が込んでおり、それぞれのしおりは手作り、裏には手書きで詩や格言が書かれてある。それを無料でどんどん配っている事に驚かれたのだ。これは日本のおもてなし文化である。基本的に「ギブアンドテイク」の関係で成り立つアメリカ人にとって、「ギブアンドギブ」の日本文化は高い評価を受けた。そして最も力を入れたのが「焼き物フェスティバル」だ。去年一年間砥部焼大使を務めた事を活かし、何かできることはないかと考えたイベントで、参加者の満足度は非常に高かった。砥部焼とルイジアナのNewcomb Potteryに類似点があることから、その二つを融合しようと考えたものである。ULMの教授に協力してもらい、プレゼンや器、サンプルの準備



を進めた。海外で自らイベントを企画し、開催するというのは初めての体験だったのでかなり大変だったが、終了後は大きな達成感を得た。

### 留学生同士の関わり

アメリカに住み、アメリカ人と関わる中で学ぶことはたくさんあったが、他国の留学生との関わりも、国際理解教育を学ぶ私にとっていい経験だったと思う。例えば、同じアジア圏内でも国によって国民性は非常に異なる。ULMには300人ほどのネパール人がいたが、シャイな性格の人が多く、コミュニティを大事にする部分は日本人に似ており、親近感が湧いた。また、ベトナム人の友達もたくさんいたが、おしゃべり好きで1人でご飯を食べていたら放っておかず必ず声をかけてくれるなど、温かい国民性であるというイメージを持った。私は外国人に対し差別的な偏見などは持たないが、やはりイメージだけでその国に対して誤解している事がまだまだある。例えば、カースト制度に対して良くないイメージ(差別的イメージ)を持っていたが、実際カースト制度が残っているネパールの人々はそれほど気にしていなかったり、アフリカのダンスはどの国も似ているのかと思っていたら、隣同士の国でも全然違うよ!とナイジェリアの友達に軽く怒られたり。こういった経験は、私の異文化理解への学習意欲を掻き立てた。異文化間交流をする上で、マナーやタブーなど知っておかなければならないこともたくさんあるが、私はそれ以上にこの人達ともっと心から理解しあいたいという気持ちの方が大きい。

### まとめ

今回の留学では、文化理解・発信の目的に沿って、自発的に行動できたと思う。伝えたいことがあるからこそ、相手が使用する言語を学び、それを活かして発信・受信する。私が行った日本語教育や文化発信は決して大規模ではないが、この小さな活動、そして個々の繋がりが平和な世界を作る鍵となることを信じている。これからもチャンスを見つけては、この活動を続けていきたいと思う。

「特定非営利活動法人 愛媛大学校友会人材活用センター」の活動

校友会会員（主に退職教員）で構成された「特定非営利活動法人愛媛大学校友会人材活用センター」は、県内の各自治体や教育機関に人材を提供するとともに、広く一般市民向けに学術、文化、芸術、保健等に関する公開講座、講演会等を開催するなど、社会教育の推進と地域の活性化に貢献しています。 ホームページ <http://koyu.ehime-u.jp/koyu/npo/>

●平成30年4月～6月 公開講座を開催しました。

■「愛媛の気候と水災害」 4月21日(土)午後開催

- ・「愛媛の気候と水災害～ふるさとの大気環境を探る～」
- ・「治山治水を考える」

愛媛大学名誉教授 深石 一夫  
愛媛大学名誉教授 鈴木 幸一

■「情報化社会と私たちの暮らし」 5月26日(土)午後開催

- ・「暮らしの中の人工知能」
- ・「暮らしの中の通信技術」

愛媛大学名誉教授，放送大学愛媛学習センター長 村上 研二  
愛媛大学大学院理工学研究科准教授 都築 伸二

■「歩いて知ろう！愛媛の地学と豊かな自然」 6月23日(土)午後開催

- ・「松山城石垣と句碑から見てくる愛媛の地学」
- ・「山の自然を楽しむ」

前愛媛大学大学院理工学研究科教授 皆川 鉄雄  
前愛媛大学総合健康センター長 佐伯 修一



●平成30年3月3日 「講演会と軽音楽の午後」を開催しました。

■講演会「自然写真を通して環境問題を考える」

愛媛大学沿岸環境研究センター准教授 野見山 桂

■JAZZ演奏会 (isn't she lovely 他)

愛媛大学軽音楽部&音楽研究会 (学生サークル)



## 第8回ホームカミングデイを開催しました。

平成29年11月11日（土）に、第8回愛媛大学ホームカミングデイを開催し、卒業生、学生及び教職員あわせて約270人が参加しました。

## 【プログラム】

13:00～

同時開催イベント

- 愛大ミュージアム見学
- 植物工場  
(樽味キャンパス) 見学



15:00～

式典（南加記念ホール）

司会：合田みゆき氏（フリーアナウンサー 教育学部卒）

- 学歌斉唱・・・愛媛大学合唱団
- 学長挨拶・・・大橋裕一学長
- 愛媛大学の国際連携の取組み紹介・・・安川国際連携推進機構長
- 特別講演『海外で活躍する卒業生、愛媛大学への期待』  
高橋祐二愛媛大学校友会会長、三浦工業代表取締役会長
- 留学生によるスピーチ

『学生時代と今のわたし』

Nur Ahamed Khondaker氏（バングラデシュ）

Iswadi Jauhari氏（マレーシア）

Le Thi Hai Le氏（ベトナム）

- 留学生によるパフォーマンス

在日インドネシア留学生協会愛媛大学支部の皆様

17:15～ 懇親会（大学会館1階）

ホームカミングデイは、平成22年度から愛媛大学と校友会との共催で学生祭と同時期に実施しており、今回が8回目の開催となりました。

特に、本年は校友会海外支部のマレーシア、ベトナム、インドネシア、中国、ネパール、バングラデシュ等の帰国留学生の方々にも多数ご参加戴き、「グローバルホームカミングデイ」として、国際色豊かにかつ盛大に開催しました。

式典では、まず最初に愛媛大学合唱団と参加者全員で学歌を斉唱。その後、大橋学長から開会の挨拶と愛媛大学の最近の動きについて紹介がありました。続いて安川国際連携推進機構長から、国際連携の取組みの紹介があり、続いて、校友会会長の高橋祐二 三浦工業(株)代表取締役会長による「海外で活躍する卒業生、愛媛大学への期待」と題した特別講演が行われました。その後3名の留学生による「学生時代と今のわたし」と題して、学生時代の思い出や現在の仕事などについて話をいただきました。

最後には、在日インドネシア留学生協会愛媛大学支部の皆さんによるジャワ島の伝統舞踊の披露があり、国際色溢れるパフォーマンスに会場から盛大な拍手がありました。

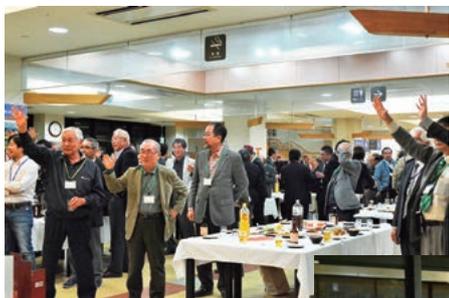


式典修了後、大学会館で行われた懇親会には、国内外から240人余りの卒業生等が参加し、仁科理事・副学長からの開会の挨拶の後、高橋校友会会長のご挨拶と乾杯で開会しました。

懇談中には、本学を卒業後、日本企業に就職している留学生のスピーチや学生団体のダンス部、馬術部、男子サッカー部代表者からの活動報告がありました。

参加者には、大学のオリジナルグッズ等のお土産も用意され、今回は松山の郷土料理のほか、グローバルカミングデイに因んで、留学生の母国の料理も用意されるなど国際色豊かな懇親会となりました。

また、恒例となった景品争奪ジャンケン大会では、ため息や大きな歓声があがるなど大いに盛り上がりました。



〈海外支部会員による企業見学等〉

11月10日(金)

三浦工業(株)北条工場  
|  
伯方塩業(株)大三島工場  
|  
亀老山展望台  
|  
テクSPORT今治

ホームカミングデイに参加する校友会海外支部会員の要望を受けて、県内企業等見学バスツアーを実施し、支部会員やその家族をはじめアルゼンチン、ブラジル、スーダン、台湾からの留学生など総勢35名が見聞を広げるとともに、会員同士や現役留学生等との親睦を深めました。



〈ポスターセッション〉

11月11日(土)午前中



海外支部会員によるポスターセッションを開催し、現在の仕事内容の紹介や取り組んでいる研究テーマ、今回、残念ながら参加できなかった会員からの近況報告など多数の発表が行われました。

〈海外支部合同支部会〉

11月11日(土)12:30~14:00

本学の国際連携推進機構のルース・バージン先生を議長として、支部の活動報告や今後の支部活動等について意見交換がなされ、国際支部を設置することやグローバルホームカミングデイを3年毎に開催して欲しいなどの要望が出され、今後検討することになりました。



第9回ホームカミングデイ | 平成30年11月10日(土)13時~ | 場所: 愛媛大学城北キャンパス

〈プログラム〉 式典 (南加記念ホール)

15:00 ~

- 学長挨拶
- 「愛媛大学の社会連携の取組紹介」  
社会連携推進機構長 仁科 弘重
- 特別講演  
「紙産業イノベーションセンターの活動状況報告」  
紙産業イノベーションセンター長 内村 浩美  
「紙産業イノベーションセンターへの期待」  
大王製紙(株)新素材研究開発室 課長 大川 淳也 氏

- チアリーディング部によるパフォーマンス  
スペシャルコンサート  
学歌斉唱

17:15 ~ 懇親会

開催の様子は次号で報告いたします。



# 陸上競技部

(平成30年8月現在)



部長 日野 克博 (教育学部准教授)

主将 蔵田 雅典

1 現在の部員数  
男子：60名 女子：23名

2 活動場所  
山越運動場

3 活動時間  
月・火・水・金 17:00~19:00  
土・長期休暇 9:30~12:00

## 4 最近の活動内容、実績

第69回四国地区大学対校選手権大会 男子総合優勝, 女子総合2位  
第71回西日本学生陸上競技対校選手権大会 男子 棒高跳び 第2位  
第71回西日本学生陸上競技対校選手権大会  
男子 110mハードル 第3位  
天皇賜杯第87回日本学生陸上競技対校選手権  
男子110mハードル, 男子棒高跳び 出場

## 5 ホームページ

<http://www.geocities.jp/aidaiathlete/newpage30.html>



## 6 アピールポイント

愛媛大学陸上競技部では中高から競技を続けている経験者から、大学から競技を始めた初心者の人まで幅広く所属しています。その中で練習メニューや試合計画などを、ブロック長を中心に学生自らで考えて日々活動しています。専門のコーチが居ないため、技術の大きな向上は難しい環境ではありますが、その分選手自らが考えて目的をもって練習に取り組んでいるため、他大学に負けないような質の高い練習をすることができます。その練習の成果が実り、今年6月に行われた第69回四国地区大学対校選手権大会で男子は3連覇となる総合優勝をし、女子も昨年より順位を上げ総合2位となりました。

来年の第70回大会では男子総合4連覇女子総合優勝を目標に部員一同日々練習に取り組んでいます。

陸上競技部の部員はみんな強い個性や自分の価値観をはっきり持っています。自分の意見を発言する機会は多くあり、自分に無い個性や価値観に触れることで、相手に正確に意見を伝える力や新たな価値観、考え方を得ることができます。また、先輩と後輩の関係も良好で陸上競技以外の面でもかかわりが多く、縦と横どちらにおいても幅広い人間関係を養うことができます。

私が愛媛大学陸上競技部に入部してよかったと思う事は、自分の競技力を向上させることができたことはもちろん、たくさんの良い仲間を見つけることができたことです。部の運営に関する仕事を一緒に行いながら、競技面ではライバル同士で切磋琢磨しあっています。陸上競技部にはそのような仲間がたくさんおり、自分はずっとその仲間たちに支えられて、自分を磨くことができました。

今後とも愛媛大学陸上競技部へのご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

(主将：蔵田 雅典)



# 交響楽団

(平成30年8月現在)



顧問 今泉 志奈子 (法文学部教授)

団長 青野 舞奈

1 現在の部員数  
男子：21名 女子：22名

2 活動場所  
大学会館302

3 活動時間  
平日 月火金 18:00~20:30  
土 9:00~12:00

## 4 最近の活動内容、実績

愛媛大学交響楽団 第69回 定期演奏会 (ブラームス交響曲第1番 他)  
愛媛大学交響楽団 第70回 定期演奏会

(ドヴォルジャーク交響曲第9番 他)

愛媛大学交響楽団室内楽演奏会

愛媛大学 第2回 木管定期演奏会

愛媛大学交響楽団金管セクションによる金管アンサンブルコンサート vol.2  
その他、小学校やお菓子屋さん等への依頼演奏を行っています。



5 ホームページ <http://aidaikyou.web.fc2.com/>  
Twitter (@aidaikyo) やFacebookも更新中です。

## 6 アピールポイント

オーケストラで大学生活を送るということは、音楽を通して出会った仲間と共に生きる力や人間そのものを学ぶことに繋がるように思えます。私たち愛媛大学交響楽団は県内唯一の学生オーケストラ団体として年2回の定期演奏会を柱に活動しております。クラシック音楽は喜びや悲しみ、祝福、時には人間臭い部分など様々な感情が交差しています。未熟な私たちは難しい曲と出会い、悩みながらも演奏会成功へ向け練習を重ね



ています。その中で指揮者やトレーナーの方々のお力とOB会のご支援には感謝の気持ちで一杯です。

私がオーケストラに触れたのは大学に入ってからのことでした。当時は吹奏楽しか経験がなかったため、初めて弦楽器と自分の音が溶け込んだ瞬間はとても新鮮で、快感を得たことを今でも覚えています。次第に演奏は一人一人ではなく、数十人で一つを作るものだという事に気づき、同時に集団での楽しさを学びました。また学科との両立において、社会に出るにあたり大切になってくる趣味としての位置づけを考えるようになってきました。

回生を重ね、愛大響をよりたくさんの方々々に知っていただき、団員に長く楽器を弾き続けてほしいと思い私は団長になりました。夏には第70回の記念となる定期演奏会を開催し、目標としていた県内外から900名以上の動員数を達成しました。現在は12月15日(土)に松山市民会館大ホールにて開催を予定している第71回定期演奏会に向け練習や運営活動に励んでおります。

これからも私たちはオーケストラの演奏会をはじめ、管楽器アンサンブルや地元の依頼演奏を通して老若男女問わず、クラシック音楽と愛大響の魅力を皆様に伝えられるよう日々精進してまいります。今後とも末永くよろしくお願いいたします。

(団長：青野 舞奈)

## 西日本豪雨災害で被災された方々への義援金

平成30年7月の西日本を中心とした記録的な豪雨により、各地で河川の氾濫による浸水害、土砂災害などが発生し、多くの尊い命や家屋を失う甚大な被害となりました。

校友会では、この豪雨災害で被災された方々を支援するため、7月23日～8月24日まで義援金を募りました。

その結果、お寄せいただきました義援金に校友会からの義援金を合わせて¥392,000となりました。

平成30年8月29日に、全額を日本赤十字社愛媛県支部へお届けしましたことをここにご報告いたします。

ご賛同、ご協力をいただきました皆さま、誠にありがとうございました。



## 西日本豪雨災害ボランティアに参加して

愛媛大学では、学長、防災情報研究センターを中心に災害調査団を結成し、被災地へ何度も調査に出向きました。また、教職員と学生によるボランティア活動を支援するためバスを借り上げ9月末日までに延べ約1,300人が参加してきました。ボランティア活動に参加された方々に寄稿していただきましたので、ご紹介いたします。

### 〈卒業生：佐伯 雅弘さん〉

校友会首都圏支部の役員をしています佐伯雅弘と申します。愛媛大学理学部数学科を昭和59年に卒業し、その後は千葉県の公立高校で数学科教員として勤務してきております。JRCというボランティアの部活動顧問もしております。自分の災害ボランティア活動は阪神大震災に始まり、その後は台湾大震災・新潟中越地震・新潟中越沖地震(柏崎市)・東日本大震災・熊本地震の各被災地で活動してきました。

平成30年7月、西日本豪雨によって愛媛県に甚大な被害があったということで、日頃生徒達には『行動で示せ!』と豪語している以上、自分も支援活動すべきと決断しました。

今回の豪雨災害支援活動については、忙しい1学期成績処理と並行させながら準備してきました。1,000キロ以上離れた千葉で詳細な情報を集めるのは困難を極めました。その準備の中で、松山市社会福祉協議会による宇和島市までの無料バス提供や宇和島市災害ボランティアセンターのサポート、愛媛大学職員会館による初日の宿泊先提供、愛媛大学校友会事務局による情報提供、そして執念の粘りで松山市内の宿泊先を確保してくれました(株)東日観光千葉県教育旅行支店には深く御礼申し上げます。

被災地入りメンバーは私以外に、私の前任校である市立船橋高校の卒業生2名が名乗りを挙げてくれました。2名とも市船JRC部員として東北支援に行った経験を持ち、うち1名は熊本地震支援活動の経験もありました。台風13号が関東を通過した直後に千葉を出発、香川県内で不通となっていたJR予讃線も出発2日前に復旧(JR四国の努力に感謝)。多くの力によって支援活動ができたという事実は、被災者には申し訳ないですが私の頭の中では薄氷の勝利だと感じています。

作業は宇和島市吉田地区の被災者宅にて行い、狭い作業場所ながら土砂や割れた瓦の撤去作業をやらせていただきました。しかし昼前のスコール後に強い日差しが照りつけ湿度が急上昇した影響なのか市船卒業生1名が軽度の熱中症になりましたので、その卒業生は作業を午前中で切り上げさせました(その後、無事回復)。スコールによって水を含んだ土砂は2倍近くまで重くなり作業は困難を極めました。しかしスコールに対して雨宿りもせず作業を続けた会社員の方々(神奈川県や東京都から参加)や市船卒業生の姿から伝わってきたファイティングスピリッツには改めて敬意を表したいと思います。作業は熱中症対策として30分の作業後に15分程度の休憩を取る形で進めました。猛暑のため私も午前中だけで1.5リットルの水分を補給し、途中から汗なのかスコールによる雨水なのか不明なほどシャツは濡れ、汗も目に入りました。もう1名の市船卒業生は翌日筋肉痛でした。全て片付かないままお盆休みに入り、その日は作業を終えました。

作業翌日は大洲市を訪問、昼過ぎに松山に戻ってからは市船卒業生達に松山市内を観光案内しました。被災地同様に暑かった松山城公園や道後温泉街などを



〈写真右：佐伯さん〉



見学。夕食後に「いよてつ高島屋」屋上にある観覧車に乗りましたが、最高に美しかった松山市の夜景が疲れを癒やしてくれたように思います。

今回愛媛県で豪雨災害が発生したことは残念なことでしたが、私自身が愛媛大学を卒業したご縁もあって、多くの方々の協力のもと愛媛まで駆けつけることができた事実は誇りに思います。私の災害ボランティア活動は阪神大震災から続けてきましたが、阪神大震災以降に生まれた愛大後輩達が、災害ボランティア活動の精神を引き継ぎ、そして将来どんなに困難な状況に遭遇しても負けずに、被災者を助けるファイティングスピリッツを持ち続けてくれればと願っています。ありがとうございます。

### 〈工学部機械工学科4回生：矢谷 竜範さん〉

工学部機械工学科4回生、ECOキャンパスサポーター所属の矢谷竜範です。私は7月21日（土）に宇和島市吉田町牛川地区、8月30日（木）に大洲市菅田町大竹地区で災害ボランティア活動を行ってきました。

私が災害ボランティアに参加しようと思ったきっかけは、宇和島市と大洲市には何度か観光で訪れたことがあり、どちらもとても魅力のある街であると感じていたことから、自分自身が少しでも地域の復興の役に立ちたいと考えたためです。災害が発生した当初は、個人でどのようにボランティアに参加すれば良いのかわからず、被災地のために何かしたいけれど、何もできないというもどかしい日々を過ごしていました。そんな中、7月中旬に工学部としてバスを出し、被災地支援を行うという情報を知り、すぐに参加を決意しました。

被災地に行くにあたり、最初は自分が本当に力になれるのか、足手まといにならないか、といった不安がありました。しかし、実際に行ってみると、大学生が来てくれたこと自体が被災地の方々に喜ばれていることがわかり、これまでの不安は払しょくされました。何か役に立つ活動をしなければと考えがちですが、現地の方のお話に耳を傾けることが一つのボランティアになることを実感しました。

被災地の現状としては、宇和島市吉田町では複数の箇所です砂崩れが発生し、土砂による道路の寸断、家屋の倒壊、みかん畑の流出などの甚大な被害を受けていました。今回、私たちが支援に訪れた住宅では、裏山が崩れ、その土砂が住宅内に流入し、家財道具が押し流されるとともに住宅も傾いている状況でした。私たちは、流入した土砂の搬出作業を行いました。中には大人一人では持ち上げられないほどの大木も流入しており、自然の猛威の恐ろしさを感じました。この住宅にお住まいの方は、親戚の方からの勧めで早めに避難をしていたようで、もしそのまま自宅に残っていたら命を落としていたかもしれないと聞き、早めの避難の重要性を強く感じました。また、被災当初は道路が寸断され、陸路が使えなかったそうですが、地元の漁師の方が船を出して消防団員や物資を運び、地域住民同士の助け合いが初期の災害対応の原動力となったと聞き、地域コミュニティの重要性を強く認識しました。

大洲市では肱川が氾濫し、床上約3,000世帯、床下約1,600世帯が浸水被害を受けたそうです。今回支援に訪れた住宅においても、増水した水が1メートル程の高さまで達し、多くの家財道具が水に浸かったとのことでした。大洲市では、床下に堆積した土砂の搬出作業、汚れてしまった食器や床材の洗浄作業などを行いました。

二回の活動を振り返って、一日で行える支援は正直なところわずかですが、一日一日の積み重ねが復興に繋がっていくのだと感じました。そのために重要なことは、支援の『継続』であると考えています。被災地の状況は刻一刻と変化し、それに伴い必要な支援も変化していきますが、人を支えることができるのは、やはり人であるということ強く感じたことから、今後も自分ができる支援を行っていきたいと思います。

私は来年4月から地方公共団体に勤務することから、今回の災害ボランティアへの参加が、災害時に行政は何をすべきか、災害に強い地域社会を築くにはどうしたらよいかを考えるきっかけとなりました。そして、万が一災害が発生した際には、今回の経験を活かし迅速な行動ができるとともに、住民に寄り添った支援ができる人間になりたいです。

最後に、今回の西日本豪雨で被災した地域が一日でも早く復興することを願っています。



〈矢谷さん〉



本学卒業（修了）後、愛媛県内企業等で活躍されている先輩を現役の愛大生が訪問取材し、先輩の生の声を掲載する『先輩に学ぶ』をホームページに掲載しています。これは、様々な業種に就かれている卒業生同士や後輩学生との交流を図るとともに、校友会会員相互のネットワークを拡大させることを目的としています。

また、先輩からの有意義な学生生活の過ごし方や就職活動等へのアドバイスなど、先輩だからこそ教えてもらえる社会のこと大学のこと（先輩学）をインタビューしています。

**松山市役所** 迫 裕美さん（2003年3月 法文学部総合政策学科 卒業）  
 大西 智子さん（2012年3月 法文学部総合政策学科 卒業）  
 戸苅 聡子さん（2014年3月 法文学部総合政策学科 卒業）  
 岡市 智美さん（2015年3月 法文学部人文学科 卒業）

〈現在：松山市役所 環境モデル都市推進課〉

（平成29年9月取材）

### 現在の仕事を選んだ理由・きっかけは何ですか。

〈迫さん〉 学生の頃ははっきりと「これになりたい」というのはありませんでした。興味のあることが沢山あったため、業種を絞らず自分の考え次第で色々なことができそうな市役所を選択しました。また、当時周囲が公務員ブームで、身近な人たちの多くが「公務員」を目指していたことにも影響されました。

〈大西さん〉 ゼミでは経営学を学んでいたため、民間企業への就職を考えていました。しかし、2回生の時に、ゼミ研究の一環で愛媛県と連携して県内企業に提案するエコ製品の販売戦略を考えたことをきっかけに、企業や大学とも協力しながら幅広い取り組みを行っている行政の仕事に興味を持つようになり、3回生の時に公務員になることを決めました。

〈戸苅さん〉 大学の時にSCV（スチューデント・キャンパス・ボランティア）のAIVO（愛大ボランティアオーガニゼーション）に所属していました。そこでボランティア活動をしている中で、行政の仕事に興味を持ちました。また、周りに公務員を目指していた人が多かったことも影響していると思います。

〈岡市さん〉 1回生の頃から第2外国語の授業をきっかけにドイツ語を勉強していて、3回生の時に「ドイツの環境首都」といわれるフライブルクに行きました。施策によって街が大きく変わるということを実感し、松山市の行政に携わりたいと考えるようになりました。



〈左：大西さん，右：迫さん〉

### 環境モデル都市推進課のお仕事について教えてください。

〈迫さん〉 市役所の中にはたくさんの「部」があって、それぞれの下に複数の「課」があります。

「環境モデル都市推進課」は「環境部」の下にある部署で、4つの係があります。

- ① 環境モデル都市である松山市の地球温暖化対策に関することを行う係
- ② 窓口に太陽光パネルの設置などの補助金関連について対応をする係
- ③ エコリーダー派遣、松山市の美化（市民大清掃）や環境に関する施設（まつやまRe・再来館、都市環境学習センター）の運営、特定外来生物への対応等を行う係
- ④ 環境部の中の調整や、環境総合計画という大きいプロジェクトの推進を行う係

一つの係が平均4人で仕事をしています。また、松山市には「ジョブ・ローテーション制度」があるので、就職後の10年間はだいたい3～4年で「課」の異動があります。

### 現在どのような仕事を担当していますか。

〈迫さん〉 教員の免許はもっていません

が、小学生や高齢者を対象に授業をしたりします。愛媛大学の社会共創学部でも授業をしました。

〈大西さん〉 温暖化施策の進捗管理のため、毎年公表している松山市の温室効果ガス排出量の計算を現在頑張っています。また、「環境」は国際的なテーマなので、去年は国際会議に参加する機会をいただいたのですが海外の方に松山市の環境の取り組みを知ってもらうための資料を作成するのに苦労しました。

〈戸苅さん〉 松山市をより環境に優しい都市にするための取り組みや啓発を行っています。

〈岡市さん〉 環境モデル都市推進課の調整・評価担当というところで、環境部内の取りまとめの業務や廃棄物関係の計画の策定、またフォローアップ作業等を行っています。

### 職場のアピールをお願いします。

〈迫さん〉 部署によって仕事は様々ですが、テレビに出る機会もあるし、自分が考えた言葉やデザインを印刷物に活かせる機会もあるし、小学校や大学で授業をすることや、地域で説明会をする機会もあります。つまり、とにかくみなさんが想像する以上に色々な経験ができます。現在の所属で4つ目の課になりますが、「異動＝転職」だと思ふことにしています。

〈大西さん〉 環境モデル都市推進課は若手の女性が多く仲がいいです。全体でも19人なので皆と話せます。でも、これは課によって違います。人数の多い課は、新しく配属されて1ヶ月で全員の名前を覚えられな



かったり、1年間ほとんど話したことのない同僚がいたりしました(笑)。  
 〈戸苺さん〉 様々な仕事があり、毎回違う経験ができます。そんな新しいことにチャレンジできる職場です。  
 〈岡市さん〉 環境モデル都市推進課では、松山市の良さ、環境の大切さを伝えたり、「ごみ」の問題について考えることができます。その中で様々なことにチャレンジでき、経験することができます。



(左：岡市さん、右：戸苺さん)

### どのような学生生活を送っていましたか。

〈迫さん〉 「オンライン」という大規模なテニスサークルに所属して、毎週たくさんの仲間とテニスをしたり、飲み会をしたり…多くの時間を一緒に過ごしました。そこで得られたものが大きいですね。体育会系だったので、年上の人への礼儀やコミュニケーション力はここで身に付けることができました。

〈大西さん〉 GI(生協学生委員会)に所属していました。新入生の部屋探しを手伝ったり、食堂のメニューを考えたり、受験生の相談にのったり…色々な活動をしていました。一緒に活動している時間が長かったからか、今でもそのメンバーと会って

いますよ。

〈戸苺さん〉 大学時代に色々な経験をしたと思っていて、その一つがボランティア活動でした。SCV(スチューデント・キャンパス・ボランティア)の一つであるAIVO(愛大ボランティアオーガニゼーション)に所属して愛媛大学生がボランティアに親しめる環境づくりに取り組んでいました。ゴミ拾いのツアー企画をしたりしました。今思えばそれが今の仕事に繋がっているのかもしれない。また、ゼミでは会計学を学びました。

〈岡市さん〉 アルバイトをしたり、長期休暇には友達と旅行に行ったり、資格をとったり、色々なことをして楽しい大学生活でした。サークル(愛翔会)活動では、「バドミントンが好き」というだけで、学年学部性別が違うたくさんの人と交流できるのが魅力でした。学祭も楽しかったですね。

### 愛大生にメッセージをお願いします。

〈迫さん〉 卒業後の進路を考えて何をしたらいいか迷った時には、自分の強みや比較的自信のあることを探して育ててみてください。焦った時こそマイペースに持ち直しましょう! 私が思うのは、色々なバイトをしておけば良かったということ。今になってやりたくなります(笑)。学生時代は時間があるのに、お金がなくて何もできなかった。その時間にお金を稼ぐ経験をしていたら経験値になったかもと悔やみます。今は時間がなくてできないことがあります。

環境モデル都市に推進されている松山市の環境整備や環境問題の解決に向けて、幅広い事業を協力して進めています。

※一部省略させていただきました。

詳しくはホームページをご覧ください。

す。行けるのであれば、海外や、国内でも足を運んだことのないまちを観光したりして、視野を広げておくといいと思います。

〈大西さん〉 社会人になっても勉強はできますが、やはり学生時代の時間はとても貴重な時間だと思います。勉強なりサークルなり旅行なり、今しかできないと思うことは全てやっておいてください。私は卒業旅行で海外に2週間ほど行きましたが、社会人になるとまずそんな長期休暇は取れないので、行っておいて良かったなと思います。

旅行以外にも、少しでも興味のある授業を幅広く履修したり、大学が企画するイベントや講演会に参加してみてもいいと思います。面白いものが沢山ありますよ。

後悔したのは、英語を頑張らなかったことです。姉妹都市関係の仕事があったり、海外の行政職員が視察に来て下さったりと今の課では英語が必要な場面が何度かあったので、一般職員でも日常会話くらいはできた方がいいなと日々実感しています。

〈戸苺さん〉 サークル、アルバイト、勉強、ボランティア等、大学生という立場であるからこそできる経験がたくさんあります。何事もチャレンジしてみてください。

〈岡市さん〉 大学の4年間には、本当に色々なことが経験できるチャンスがいくつもあると思います。

沢山の時間があり、沢山の授業やゼミが用意されています。そして沢山の専門家が身近にいます。何が将来の仕事や考え方に繋がるかは分からないものです。どんどん挑戦して、充実した大学生活を送ってほしいなと思います。

## (株)レデイ薬局 高野 陽子さん

(2013年3月 法文学部総合政策学科 卒業)

〈現在：(株)レデイ薬局 商品部  
ビューティーケアグループ〉

(平成29年11月取材)



### 現在の仕事を選んだ理由・きっかけは何ですか。

初めはマスコミ系への就職を希望していました。就職活動では全国のテレビ局の試験を受けに行き、沖縄の次の日は東京といったような、かなりハードなスケジュールでした。

そんな中、風邪をひいてしまい、レデイ薬局に行って薬を買ったんです。そこのレジのスタッフが優しく「お大事になさってください」と言ってくれました。ドラッグストアでそんな風に声をかけられたことに驚いて、感動しました。そのことがきっかけで、レデイ薬局の説明会に行ってみて「お客様に感動を提供する」というスローガンを掲げている会社だということを知りました。そのスローガンに共感してそれを作り上げる一員になりたいと思いこの仕事を選びました。

### 現在どのような仕事を担当していますか。

今年の5月から商品部でビューティーケア（シャンプー、ボディソープ、男性用化粧品など）バイヤーの仕事をしています。

バイヤーはどの商品を店頭に並べるか、どのように置くか、どのように見せるかなどをメーカーと交渉して決める仕事です。そのために都市部での展示会に参加したりするので出張も多いです。店の中の商品の位置や並べ方はとても戦略的にできていて、バイヤーはその戦略を決めています。各店舗はその指示によって商品を発注したり並べたりします。

この仕事に就いたのは今年からで、入社して3年間は広島店舗で化粧品の担当を経験しました。商品管理や接客を行ったり、お客様との関わりを通して商品知識も増えました。その後、松山の店舗で店長も経験しました。その時は店舗全体の舵取り役として動きました。



### 休日の過ごし方について教えてください。

休日買い物に行った時は、商品

が棚にどうやって並んでいるかを見てしまいます。陳列の仕方が違うだけで、同じ商品であってもお客様への印象が全然違います。ですから、商品の特徴や見せ方にどんな工夫がされているかなどを、つい見ながら買い物をしています。

### どのような人が向いている仕事ですか。

人と接するのが好きな人は、お店での仕事に向いていると思います。広島で勤務していた頃に、誰一人自分を頼って来てくださるお客様はいませんでした。お客様の顔を覚えて、再来店されたときは声かけをしていました。次第に「高野さん」と指名して化粧品を買ってくださるお客様も増えていきました。そして広島での勤務最終日に、これまでお世話になったお客様に沢山来ていただきました。誰も知り合いのいなかった広島で、こんな関係が築けていたことに嬉しくなりました。その時に、接客はこんなにもやりがいがあるのかと思いました。これは入社するまで気付かなかったやりがいです。

店舗で取り扱う商品を選定し、決定するバイヤー。消費者に感動を提供するために、どのような売り場が良いかを常に考えています。



学生時の高野さん（右から2番目）

社会人になって気を付けていることを教えてください。

とにかく明るく人に接しよう、と思っています。幼い頃から両親に「感謝と思いやり」と言われていてそれが染み付いています。絶体絶命的困難な状況に陥っても、そこで暗くなってしまうたら周りまで暗くなってしまう。上司、同僚、部下、他の会社の方、お客様、多くの人と接する仕事だからこそ変わらない明るさを持ち続けることを心がけています。

どのような学生生活を送っていましたか。

テレビ局で報道フロアのデスク補助のアルバイトをしていました。テレビ局の裏側を知ることができて本当に面白かったです。他にも、webラジオのDJもしていました。4年間しかないんだぞ、と思って今しかできないことをやりました。他にも社会人の団体でゴスペルをしたり、H.S.G.（法文学部新歓学祭実行委員会）でハリポテ大会に参加したり、全てに全力を注いでいました。失敗も多かったですが、やり残したことは特に思い当たり

ません。



学生時の高野さん（中央）

愛大生にメッセージをお願いします。

就活はすごく大きなものに思えます。落とされる時は理由も言われないから、自分をアピールしたら落とされるという辛い日々かもしれません。でも、「ここに入ること」が最善だと決めつけるのではなく、「入って何をするか」が大切です。大手がいい、知っている会社がいい、ではなくそこで何がしたいかが大事だと思います。入ること、内定を取ることが目的にならないようにすれば良いと思います。

インタビューを終えて  
（学生インタビューアの感想）

【井町】

店内の商品の並べ方、積み方、POPの貼り方、売価などにはそのお店の商業戦略の知恵が結集されていることを学びました。取材後、レデイ薬局に買い物に行った際に注意深く店内を見渡すと、これまで何とも思わなかった箇所に多くの気づきがありました。店舗を構える業種への就職を考えている場合は、実際の店舗に足を運ぶことが必須だと感じました。

また、学生時代、多くのことに一生懸命に取り組んでおられた高野さん。私も高野さんのように「やり残したことはありません」と言えるような学生生活を過ごしていきたいです。

【福井】

高野さんのように就職活動中の思わぬ出会いで、自分が最初に希望していた職種とは違う業種の仕事に就くことは先輩学の取材をしてよく聞く経験談の一つです。興味を持つきっかけは日常生活の中にあり、それに気付くためには、どうやって視野を広げるかといったことも就職活動には大事ななのかもしれないと今回のインタビューで思いました。

## 首都圏支部だより

〈首都圏支部事務局〉（愛媛大学サテライトオフィス東京）  
東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター6F 613号  
※職員は常駐しておりません。連絡は校友会事務局本部へお願いします。

平成30年3月10日(土)

就活ツアー（東京コース）参加学生との情報交換会を開催しました。

▶詳細につきましては7ページをご覧ください。

平成30年5月19日(土)

愛媛大学校友会新社会人歓迎会「全員集合2018 in 東京」を開催しました。

今春、愛媛大学を卒業し首都圏内で働き始めた新社会人の皆さんを、校友会首都圏支部の役員やOB、OGが歓迎・応援し、ひいては本学卒業生同士の連携と親交を深めることを目的に毎年度開催しています。

今年は、5月19日（土）の17時30分から東京田町の「百代茶屋」（グランパークタワーB1F）において、新社会人6人を含む総勢23名が参加し、首都圏支部の若手役員にお世話をいただき盛大に開催されました。

同会では、久しぶりに同級生や先輩と再会し終始和やかな雰囲気のもと、恒例の「愛媛県の特産物争奪じゃんけん大会」などで大いに盛り上がりました。



平成30年6月9日(土)

平成30年度首都圏支部総会・講演会を開催しました。

平成30年6月9日（土）東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター1Fの「国際会議室」（港区芝浦3-3-6）において第6回定時総会を開催しました。

総会には愛媛大学の弓削理事・副学長をはじめ、首都圏に在住する会員42人が出席しました。

定時総会では議長に清水支部長を選出し、事業報告及び収支決算案、事業計画及び予算案、支部役員改選などの議案が審議され了承されました。

なお、次期支部長には清水栄治氏（法文学部卒）が再任されました。

総会終了後は、弓削理事・副学長による【愛媛大学の近況について】と題し、愛媛大学の最近の動きについて講演がありました。

引き続き、愛媛大学大学院農学研究科教授・植物工場研究センター副センター長の羽藤先生による【愛媛大学植物工場研究センターの概要について】と題し講演会が開催され、トマト栽培などについて非常に興味深いお話となり、出席者は熱心に耳を傾けておられました。

講演会終了後には隣の「グランパークプラザB1F 百代茶屋」に於いて懇親会が開催され、会員同士が楽しい一時を過ごしました。



## 近畿支部だより

愛媛大学校友会近畿支部は校友会本部事務局が担当しております。  
入会手続きや、活動等についてのお問い合わせは校友会事務局まで。

平成30年2月28日(水)

就活ツアー（大阪コース）参加学生との情報交換会を開催しました。

▶詳細につきましては7ページをご覧ください。

平成30年7月14日(土)

平成30年度近畿支部総会・講演会を開催しました。

平成30年7月14日（土）の14時から、大阪市北区のブリーゼプラザ8F「805号室」において第4回定時総会を開催しました。同会には、愛媛大学の弓削理事・副学長や後藤近畿支部長など、近畿圏に在住する会員32人が出席しました。

定時総会では音瀬幹事の司会進行により、岡本副支部長が議長代行に選出され、平成28年度及び29年度の事業報告、収支決算書、平成30年度及び31年度の事業計画及び予算、支部長及び支部役員選任などについて審議され了承されました。

なお、近畿支部長には引き続き後藤幹郎氏（文理卒）が選任されました。



総会終了後は、講演会を開催し、最初に、弓削俊洋理事・副学長から「愛媛大学の近況について」と題し、本学の最近の動きについて講演がありました。

引き続き、南予水産研究センター副センター長の松原孝博教授による「スマの完全養殖の取り組みについて」と題した講演では、なぜ養殖魚にスマが選ばれたのか、完全養殖までの道のり、また今後の問題点等について分かりやすく説明があり、出席者は熱心に耳を傾けていました。

講演会終了後には、会場を隣のビル2F「バンダリア」に移動して、夜船幹事の司会により懇親会が開催され、初めての参加者の自己紹介や、会員による近況報告など楽しい一時を過ごしました。

## 海外支部の設置状況

	支部	設立年月	支部長
1	ベトナム支部	2006年9月	Le Thi-Hai Le 〈リハイレ〉
2	中国支部	2006年11月	蔡英春 CAI, Yingchun 〈サイエイシュン〉東北林業大学
3	ネパール支部	2007年4月	Yogesh Hari Shrestha 〈ヨゲシュ〉
4	マレーシア支部	2007年11月	Iswadi Bin Jauhari 〈イスワディ〉
5	インドネシア支部	2013年12月	Herry Suhardiyanto 〈ヘリー〉ボゴール農業大学
6	バングラデシュ支部	2014年12月	Nur Ahamed Khondaker



校友会の国内3つ目の支部として、平成30年9月8日に中国支部設立総会が開催されました。

## 中国支部設立総会

愛媛大学卒業生のうち約2割が中国地方に就職している中、以前よりご要望をいただいていた校友会中国支部を平成30年9月8日（土）に設立しました。

広島市内の「ひろしまハイビル21」において開催した同支部設立総会・懇親会には、中国地方在住の卒業生約140人に出席いただき、満場一致で校友会中国支部の設置が承認されました。

総会冒頭には、同支部設置準備委員会の野倉代表から、設立趣意及び設立経緯の報告があり、続いて高橋校友会会長からは、支部設立にご尽力いただいた方々へのお礼と、今後も各学部同窓会と手を携え、愛媛大学を支援するとともに校友会の組織及び活動の充実に努めたいとのご挨拶がありました。

続いて、ご来賓を代表して、大橋愛媛大学学長から、支部設立のお祝いの言葉とともに、愛媛大学の教育改革・組織改革等の状況や来年の開学70周年について紹介がありました。

その後、議事に移り支部規約、新役員、事業計画等が満場一致で承認され、新役員の紹介と岡田禎之初代支部長からの就任挨拶がありました。

〈 次 第 〉-----

1. 愛媛大学校友会中国支部設立趣意及び設立経緯報告
2. 愛媛大学校友会本部関係者の紹介
3. 来賓紹介
4. 愛媛大学校友会会長挨拶
5. 愛媛大学学長挨拶
6. 総 会

〔議 事〕

- (1) 校友会中国支部規約(案)について
- (2) 校友会中国支部役員(案)について
- (3) 平成30・31年度校友会中国支部事業計画(案)について
- (4) 平成30・31年度校友会中国支部予算(案)について
- (5) その他

7. 講演会 15:00～

「愛媛大学の近況について」

愛媛大学理事・副学長 弓削 俊洋

8. 懇親会 15:30～



総会後は、愛媛大学の弓削理事・副学長から、「愛媛大学の近況」について報告があり、出席者は母校の充実と発展ぶりに胸を熱くして聞き入られていました。

引き続いての懇親会では、ご来賓代表として武田工業会会長及び清水校友会首都圏支部長からお祝いのメッセージをいただき、野村校友会副会長のご発声により乾杯で開会しました。

その後、95歳の大先輩を含む3名の方々から温かいメッセージをいただくなど終始和やかな雰囲気の中、学部を越えた卒業生同士の再会を喜び合うとともに、ご来賓の方々や本学の教員等との交流を深めました。

同会の最後には、出席者全員により愛媛大学学歌を斉唱し、河野副支部長のご挨拶と一本締めで盛会のうちに終了となりました。

お忙しい中、ご出席いただきました皆さま、どうも有り難うございました。

今後とも、愛媛大学校友会事業にご支援・ご協力をお願いいたします。



校友会では、毎年、子規俳句カレンダーを製作しています。卓上タイプで、両面使用可能です。(片面は写真メイン、もう片面はスケジュールを記入することが出来ます。)

学長が選出した正岡子規の俳句と、大学職員が撮影した四季折々の愛媛県内などの写真、そして英訳で構成されております。このカレンダーが国内外の皆様と愛媛大学、愛媛県や子規との出会いの機会になればと思います。

## ■子規俳句カレンダー 2019

愛媛大学校友会 [2019年版子規俳句カレンダー] を校友会会員様に限りプレゼントいたします。

詳細・応募につきましては12月中旬に校友会ホームページにてご案内いたします。先着200人(予定)としていますのでお早めにご応募ください。

1月以降にお電話でも受付いたします。



## | 2019年版一抜粋 |

1月 温泉の町に紅梅早き宿屋哉



道後温泉別館 飛鳥乃湯泉

4月 大桜只一もとのさかり哉



高知県 ひょうたん桜

8月 舟でくる友もありけり夏座敷



松山市 三津の渡し

## ■特別寄稿■



### 「飛行機の命名者」

元朝日ヘリコプター(株)社長 **森田 正** (文理学部卒)

私は、昭和33年3月愛媛大学文理学部(法学)卒業と同時に黎明期の航空界に入り、戦後実用化され、わが国に導入されたばかりのヘリコプター事業に夢とロマンを求めて従事した。幸い、入社した翌年に西武資本参加と堤清二氏(西武百貨店社長)を2代目社長に迎え、朝日ヘリコプター(株)は発展の一途を辿り、業界トップ企業に躍進した。

爾来、私は47年間在任し、社長を10有年務め業界の発展に寄与した。

このことが機縁となり、平成13年3月9日、神田の学士会館で「日本飛行機事始」と題する講演を行った。その中から一部、愛媛に由来するエピソードをご紹介します。

“飛行機”という名称は明治27年、四国丸亀歩兵第十一連隊の看護卒「二宮忠八」(八幡浜出身)が「軍用飛行機考案之儀に付上書」という上申書を軍司令部に提出しており、この時に初めて“飛行機”という名称を用いている。しかし公式に命名したのは、当時商工省特許庁審査官であった「奥島清太郎」である。商品の分類を担当していた際、陸軍では「飛空機」、海軍では「航空機」と名付けられていたので「飛行機」と命名した。奥島清太郎は、明治10年に松山市に生を受け、明治38年東京帝国大学工学部を卒業、同年商工省特許庁に入省した。後に弁理士事務所を開設し、日本の弁理士制度に先駆的役割を果たされ、大きな功績を残している。

〈余話〉清太郎の実弟・奥島愛治郎氏は九州帝国大学医学部を卒業後、教授の道を捨て、故郷松山で病苦に悩む市民を救済するため、一番町の目抜き通りに外科病院を建設し、大正4年に開業した。大正5年に座乗した人力車が、「坊っちゃん列車」に衝突し、右足を轢断されたが、重傷に屈せず、自ら止血により生命をとりとめ、義足により生涯「医は仁術」をもって「伊予の赤ひげ先生」として松山市民に親しまれ、72歳で不帰の客となられた。

戦災の灰燼に帰した奥島病院は戦後、道後公園前に再建され、現在四国有数の大病院となっているが、創業精神はそのまま承継され、愛治郎氏の孫にあたる三代目病院長が、松山市民の医療福祉向上に専念されている。

平成30年7月27日(金)、愛媛大学校友会理事会を開催しました。

平成30年度の校友会理事会を7月27日(金)の16時から「松山全日空ホテル」で開催しました。

同ホテル4階の「ルビールーム」で開催した理事会には、ご多忙の中、高橋会長をはじめ、森本相談役、武田、野村両副会長、弓削理事・副学長等35名の理事にご出席いただきました。

同会では、校友会役員を選出や昨年度の事業・決算報告、今年度の事業計画・予算案などのほか、愛媛大学への支援等について熱心にご審議いただいた結果、全ての議案についてご承認をいただきました。

■理事会 16:00～ 松山全日空ホテル ルビールームにて

議題

1. 校友会役員を選出(案)について
2. 平成29年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について
3. 平成30年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について
4. 愛媛大学への支援について
5. その他

報告事項

- (1) 校友会中国支部設立総会について
- (2) 第9回ホームカミングデイについて
- (3) その他

■懇親会 17:30～ 同ホテル ダイヤモンドルームにて

理事会に引き続き開催した懇親会には、高橋会長ほか31名の理事等が出席し終始和やかな雰囲気の中、役員同士が大いに親睦を深めました。

来年度は6月頃に定時総会を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



校友会役員紹介

平成28年度～平成30年度 (平成30年7月27日～)

(敬称略:50音順)

役職	氏名	現職
会長	高橋 祐二	工業会(工学部同窓会) 三浦工業(株)代表取締役会長
副会長 (常任理事)	武田 壽	工業会(工学部同窓会) 会長
副会長 (常任理事)	野村 靖記	法文学部同窓会、総務企画担当 松山総合開発株式会社代表取締役社長
常任理事	井上 雅裕	理工学研究科(理) 教授
常任理事	大谷 勲	理学部同窓会
常任理事	小池 昭彦	法文学部同窓会会長
常任理事	上甲 功治	総務部総務課長、総務企画担当
常任理事	高橋 治郎	教育学部同窓会会長
常任理事	立入 哉	教育学部教授
常任理事	仁科 弘重	理事・副学長、農学研究科教授
常任理事	野倉 嗣紀	退職教員の会会長、常任理事会議長、総務企画担当
常任理事	羽藤 堅治	農学研究科教授
常任理事	平岡 耕一	理工学研究科(工) 教授
常任理事	松本 長彦	法文学部教授
常任理事	水口 和壽	退職教員の会理事
常任理事	三好 功	農学部同窓会(ユーカー会) 会長
常任理事	葉師神 芳洋	医学部同窓会会長、医学研究科教授
常任理事	矢野 紘	工業会(工学部同窓会)、総務企画担当
常任理事	山村 滋	退職職員会会長
常任理事	山本 智規	社会共創学部准教授
常任理事	弓削 俊洋	理事・副学長、法文学部教授、総務企画担当
理事	東 長雄	理学部同窓会会長
理事	泉 紀江	工学部事務課長

役職	氏名	現職
理事	一色 健一	退職職員会理事
理事	稲見 俊光	退職職員会理事
理事	岩田 英信	医学部後援会
理事	太田 洋一郎	法文学部後援会会長
理事	垣原 登志子	農学部同窓会(ユーカー会)、農学研究科准教授
理事	木下 尚樹	農学部後援会会長
理事	久保 泰敏	法文学部同窓会
理事	窪田 博継	教育学部同窓会
理事	黒田 伊久男	農学部事務課長
理事	小玉 豊美	理学部事務課長
理事	後藤 淳	医学部看護学科同窓会 山陽学園大学
理事	後藤 幹郎	近畿支部長、法文学部同窓会
理事	堀出 和久	法文学部事務課長
理事	嶋津 孝	退職教員の会副会長
理事	清水 栄治	首都圏支部長、法文学部同窓会
理事	菅田 顕	教育学部同窓会
理事	仙波 文彦	財務部財務企画課長
理事	武田 和義	退職職員会副会長
理事	竹田 美喜	松山市立子規記念博物館館長、法文学部同窓会
理事	田鍋 克仁	教育学部事務課長
理事	谷 弘幸	理学部同窓会
理事	坪井 敬文	医学部同窓会、プロテオサイエンスセンター教授
理事	鶴崎 孝	退職教員の会理事
理事	仲田 利通	工学部後援会会長

役職	氏名	現職
理事	仲田 秀雄	理学部同窓会
理事	西田 和真	法文学部同窓会
理事	野田 委代	社会共創学部後援会会長
理事	VERGIN・RUTH	国際連携推進機構特命教授
理事	村瀬 光春	退職職員会副会長
理事	山内 和美	理学部後援会会長、社会共創学部事務課長
理事	山内 孔	教育学部後援会会長
理事	渡邊 政広	工業会(工学部同窓会)
監事	井手 康夫	旧制松山高等学校同窓会
監事	武岡 英隆	南予水産研究センター教授
幹事	阿部 修一	教育学部同窓会
幹事	阿部 晋	教育学部同窓会
幹事	池内 直之	工業会(工学部同窓会)
幹事	上谷 浩一	農学部同窓会(ユーカー会)
幹事	佐々木 珠希	法文学部同窓会
幹事	城賀本 晶子	医学部看護学科同窓会
幹事	藤井 雅治	工業会(工学部同窓会)、理工学研究科(工) 教授
幹事	松下 志郎	教育学部同窓会
幹事	松田 正司	医学部同窓会、医学系研究科教授
幹事	渡邊 政富	工業会(工学部同窓会)
幹事	渡部 保夫	農学部同窓会(ユーカー会)
顧問	大橋 裕一	愛媛大学長
相談役	森本 惇	前校友会会長
参与	鮎川 恭三	元愛媛大学長

平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画

区分	事業名	平成29年度事業報告	平成30年度事業計画
会員交流事業	会員ネットワーク事業	校友会の活動状況等を校友会会員に広く情報発信するため、校友会報（第3号）を発刊した。 県内企業等で働く先輩を訪問し、大学生活や就職活動等について取材した記事「先輩に学ぶ」を校友会ホームページ等に紹介し、会員相互のネットワークの拡大や、在学生の就職活動に対する支援を行った。 首都圏や近畿圏で働き始めた新社会人を、当該地の先輩とともに歓迎する新社会人交流事業を実施した。	校友会の活動状況や大学の近況等を校友会会員に広く情報発信するため、「校友会報」第4号を発刊する。 県内企業等で働く先輩を訪問し、在学時の大学生活や就職活動等について取材した記事を校友会ホームページ等で紹介し、会員間のネットワークの拡大や在学生の就活の一助とする。 首都圏、近畿圏で働き始めた新社会人を、当該地の先輩が応援するとともに校友会ネットワークの拡充を図る。
	支部事業	国内の支部及び海外の支部に関する事業への支援を行った。	本年9月に中国支部を立ち上げるとともに、国内外支部が行う事業活動への支援を行う。
	NPO法人校友会人材活用センター活動支援	NPO法人「愛媛大学校友会人材活用センター」主催による公開講座（3回）及び講演会（1回）を開催した。また、同センターの人材バンクへの登録を推進した。	NPO法人愛媛大学校友会人材活用センターが行う講演会及び公開講座の開催を支援する。
	就職支援事業	東京、大阪で開催される合同企業説明会に参加する就職活動学生に対し、交通費の一部補助を行うとともに、当該地の先輩との情報交換会を開催し就職活動を支援した。 医学部の国家資格取得試験のための資金援助を行う。	東京、大阪で開催される合同企業説明会に参加する就職活動学生に対し、交通費の一部補助を行うとともに、当該地の先輩との情報交換会を開催し就職活動を支援する。 医学部学生の国家資格取得試験のための資金援助を行う。
	修学資金支援貸与援助	新規貸与者なし。また返還業務の円滑な処理を行った。	貸与者に対し返還業務の円滑な処理を行う。
	新入生及び卒業生記念品事業	新入生に対し入学記念品及び「学修ポートフォリオファイル」を配布した。卒業生に対しては卒業記念品「今治タオル製品」を贈るとともに卒業後の情報登録を推進した。	新入生及び卒業生に記念品を贈り校友会活動の広報等に役立てる。
	ホームカミングデイ事業	愛媛大学との共催により第8回ホームカミングデイを開催した。特に、今年度は多数の帰国留学生の参加を得て、グローバルホームカミングデイとして開催した。	愛媛大学と共催で、第9回ホームカミングデイを実施する。
大学支援事業	学内整備支援事業	農学部キャンパス駐輪場等の環境整備事業を支援した。	学内の教育環境整備事業等を支援する。
	学生用図書整備事業	平成29年度愛媛大学図書館資料収集方針に基づき、学生用図書を選書し大学に寄付した。	全学的に開催する事業への支援及び資金援助を行う。
	海外派遣制度支援事業	交流協定校への派遣補助及び国際連携推進機構が企画した海外派遣プログラムに参加する学生に対して、渡航費等の一部補助や保険料等の一部補助を行った。	交流協定校及び国際連携推進機構が企画する短期海外派遣プログラム参加者に対する渡航費等の一部補助や保険料等の一部補助を行う。
	留学生修学資金支援事業	グローバル人材留学生や成績優秀な私費留学生に対する修学資金の援助を行った。また、アイネックスに特別会員として加入し側面からも支援している。	成績優秀者かつ経済的困窮留学生、グローバル人材育成プログラム生へ奨学金を支給する。
	学業奨励金給付事業	愛媛県内に就職した学生に対して「地域定着促進特別奨学金」を給付した。	県内就職率向上と地域の活性化を図ることに繋げるため、愛媛大学が行う「地域定着促進特別奨学金」制度に対して資金援助を行う。
	学生募集活動支援事業	入試担当職員の進学説明会等への参加に対し、旅費の資金援助を行った。	入試担当職員の進学説明会等への参加に対し、旅費の資金援助を行う。
	課外活動支援事業	愛媛大学の学生団体課外活動評価基準に基づき、平成29年度における課外活動状況を段階別に評価し、これに基づき支援を行った。	愛媛大学が定めた評価基準に基づき、学生の課外活動団体の平成29年度における課外活動状況を評価し、課外活動経費を支援する。 全国大会に出場するサークルに交通費等の一部を支援するほか、医学部学生団体連盟に支援経費を補助する。
	SSC支援事業	スーパーサイエンス特別コースの特別交流授業への補助（交流会等補助）を行った。	
	英語プロフェッショナル養成コース支援事業	学生の高度で実践的な英語運用能力の養成と資格取得のため、カレッジTOEIC等受験に伴う補助を行った。	学生の高度で実践的な英語運用能力の養成と資格取得のためのカレッジTOEIC等受験の補助を行う。
	地域連携支援事業	劇団「en塾」愛媛公演に伴う支援を行った。	今年度の実施計画はなし。
社会連携事業	カレンダー共同作成事業	「子規プロジェクト」の協力を得て作成した子規俳句カレンダーを、校友会会員・大学関係教職員・国内外における各種事業の際に配布し、校友会や愛媛大学はもとより排都松山の広報や情報発信に役立てた。	「子規プロジェクト」と共同で俳句カレンダーを作成し、国内外に対して校友会及び愛媛大学の広報に役立てる。
	会議等運営	理事会、常任理事会を開催した。	理事会、常任理事会を開催する。
管理運営等	各種印刷物	校友会の組織や事業活動等を広く周知理解と協力を得るため、校友会インフォメーションを改訂し新入生全員に配布した。また、本部・支部等で行う各種事業の際にも配布し、校友会の事業活動報告や会員間の情報交換のツールとして役立てた。	校友会の組織や事業活動等を広く周知理解と協力を得るため、校友会インフォメーション等を発行し新入生等に配布する。また、校友会の本部・支部等が行う各種事業の際にも配布し、校友会の事業活動の報告や会員間の情報交換のツールとして提供する。

平成29年度決算及び平成30年度予算

(収入) (単位：千円)

科目	29年度決算額	30年度予算額	差引増▲減額	備考
	A	B	B-A	
会員会費	38,460	38,220	▲240	学部・大学院・退職教職員等入会者
受取利息	5	15	10	預金利息
寄附金				
返還金（修学資金支援貸与金）	242	697	455	
雑収入				
当期収入合計	38,707	38,932	225	
前期繰越収支差額	15,091	18,374	3,283	
収入総合計①	53,798	57,306	3,508	

(支出) (単位：千円)

事業	項目	29年度決算額	30年度予算額	差引増▲減額	備考
		A	B	B-A	
1事業	(1) 会員交流事業	12,847	15,500	2,653	会員ネットワーク事業、支部設立等事業、人材バンク事業、社会活動支援及び相談事業、ホームカミングデイ支援事業、新入生・卒業生記念品事業
	(2) 大学支援事業	15,366	15,800	434	学生図書の購入、海外派遣制度支援事業、留学生修学資金支援事業、学業奨励金給付事業、学生募集活動支援事業、課外活動支援事業、英語プロフェッショナル養成コース支援事業
	(3) 社会連携事業	944	1,300	356	講演会等開催事業、地域連携支援事業、カレンダー共同作成事業
2管理運営	(1) 管理費等	6,267	7,800	1,533	
	(2) 予備費	0	3,000	3,000	
	当期支出小計	35,424	43,400	7,976	
	積立金（特別経理へ）	0	0	0	
	支出総合計②	35,424	43,400	7,976	
次期繰越収支差額③(①-②)	18,374	13,906	▲4,468		

## ▶ 校友会組織



連携支援

※正会員の資格は、校友会設立時(平成16年3月20日)以前と以後とで異なります。

<b>愛媛大学校友会</b> 会議 総会 理事会 常任理事会  役員 会長(理事) 副会長(理事) 顧問 相談役 参与 理事 監事 幹事  事務 事務局  支部等 国内支部 海外支部	<b>愛媛大学校友会</b>	<b>正会員</b>	<b>校友会設立前</b>	<b>卒業生</b> (同窓会会員)	校友会設立(平成16年3月20日)以前から次の同窓会会員である者 旧制松山高等学校同窓会, 法文学部同窓会, 教育学部同窓会 理学部同窓会, 医学部同窓会, 医学部看護学科同窓会, 工学部同窓会(工業会), 農学部同窓会(ユーカー会)
				<b>退職教員の会会員</b> <b>退職職員会会員</b>	校友会設立(平成16年3月20日)以前から 退職教員の会会員, 又は退職職員会会員である者
			<b>校友会設立後</b>	<b>卒業生</b>	平成16年度以降の卒業生で在学中に準会員であった者 及び卒業後に入会した者
				<b>後援会会員</b>	各学部後援会会員(準会員が在学中の期間のみ正会員となります) 法文学部後援会, 教育学部後援会, 理学部後援会 医学部後援会, 工学部後援会, 農学部後援会 社会共創学部後援会
				<b>大学教職員</b> (退職者を含む)	校友会設立(平成16年3月20日)以降に入会した者 (退職後も正会員となります)
		<b>準会員</b>	<b>在学生</b>	在学中に校友会に入会した者(卒業後は正会員になります)	
		<b>賛助会員</b>	本会の事業を賛助する個人・企業及び団体		

## ▶ 校友会Q &amp; A

## ■ 校友会の目的は？

愛媛大学校友会は平成16年3月20日に愛媛大学の発展に寄与すると共に、会員相互の親交と交流を図ることを目的に設立された団体です。現在、会員は12万人を超えています。

## ■ 校友会の会費は？

校友会設立(平成16年3月20日)以前から各同窓会会員の卒業生は、校友会設立時に校友会の正会員としていただきますので、校友会会費(2万円)を納めていただく必要はありません。  
 また、校友会設立以降に入学した方は、入学以後に校友会会費(2万円)を納めれば在学中は準会員に、卒業(退学)後は自動的に正会員(終身会員)となります。

## ■ 各学部同窓会と校友会とのちがいは？

愛媛大学の同窓会は学部ごとに組織された団体ですが、校友会はすべての学部の垣根を越えて組織された団体で、各学部同窓会会員、後援会会員、退職・現職教職員及び在学生(準会員)も含まれる点で大きく異なります。

## ■ 学生(準会員)へはどんな支援をしているの？

学生へは大きく分けて「入学生支援」「教育支援」「課外活動支援」「学業奨励金給付事業」「海外留学支援」「留学生支援」「就職活動支援」「卒業生支援」等を行っています。  
 最近では、入学生には「学修ポートフォリオファイル」及び「入学記念品」を、卒業生には卒業記念品として「今治のタオルマフラー」を贈呈しました。詳しくはP4～P8をご参照ください。

## ■ 卒業後はどんな活動に参加できるの？

総会(3年に1回開催)にぜひ参加してください。また、会員間の交流事業として「ホームカミングデイ」、「新社会人歓迎会(全員集合in東京、大阪)」、「就活学生との情報交換会」、「講演会」、「公開講座」、「演奏会」等に参加いただけます。

## ■ 会員情報登録って？

愛媛大学校友会会員であっても住所、メールアドレスなどの情報を校友会に登録していただかないと、校友会から愛媛大学及び校友会の近況やイベント情報をお知らせすることが出来ません。大学や校友会からの情報発信や会員同士のネットワークを広げていただくため、ぜひ右頁の「会員情報登録のご案内」により会員情報登録(無料)をお願いします。まだ登録されていない方、卒業等により連絡先を変更された場合にも、変更登録をお願いします。なお、新規に登録された方には校友会から記念品を進呈いたします。

## 会員情報登録のご案内

※登録は無料です。

- ① WEBからの登録  
<http://koyu.ehime-u.jp/entry.html>  
 にアクセスして登録ください。
- ② ハガキ，FAXで登録  
 ハガキ，または紙に下記の必要事項を記入し，送ってください。

●は必須項目です

●氏名：( )  
 旧姓 ( )

●性別： 男 女

○生年月日： 昭和・平成 年 月 日生 ( 歳)

●住所： 〒 -

○電話（携帯）番号 ( )

○メールアドレス ( )

●区分：  
 卒業生 大学教職員 退職教員 退職職員 後援会員

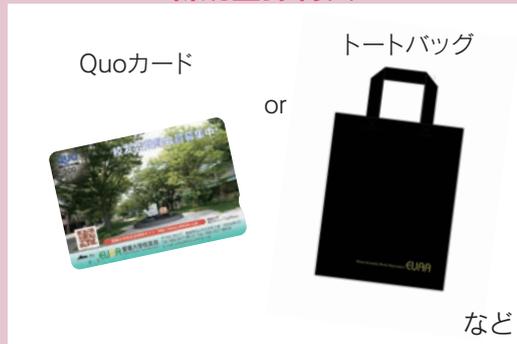
---

※卒業生のみ下記もご記入お願いします。

●卒業学部・学科・卒業年  
 ( ) 学部  
 ( ) 学科  
 昭和・平成 年 月卒業・修了



### 新規登録特典



「校友会オリジナルグッズ」を進呈  
 (在庫等の状況により変わります)

※愛媛大学校友会の会員の方のみご登録が可能です。  
 ※なお、ご登録いただきました情報に関しましては、  
 愛媛大学校友会が厳重に管理し、校友会からのご  
 連絡のみに使用し、他の目的に使用したり、第三  
 者に提供することはありません。

＜お問い合わせ・送付先＞  
 愛媛大学校友会事務局  
 〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2階  
 TEL 089-927-8610 / FAX 089-927-8609

## 事務局だより

### ★原稿を募集しています。

校友会では、ホームページや会報に掲載する  
 原稿を募集しています。

在学時・在職時の愛媛大学の思い出を写真等  
 (当時のキャンパス・愛媛県内の風景など)

ありましたら添えてメール又は郵送で投稿してください。

また、会報に関して、大学関係で掲載して欲しい事、見たい場所等ございましたらお気軽にご連絡ください。

可能な限り取材して掲載したいと思っております。校友会事務局は少人数での運営のため、行き届か  
 ない点はどうぞご容赦いただきますよう、お願いいたします。

